

大崎市民病院 岩出山分院

令和5年度
臨床指標



臨床指標とは

臨床指標（クリニカル・インディケータ）とは、病院の機能や診療の状況などについて具体的な数値として示したものです。

臨床指標を分析することで課題や改善点を見つけ出し、医療の質の向上に役立てるとともに、患者さんにとって分かりやすい医療情報を提供することを目的としています。

当院では、本指標の分析と公表を通じて、最適な医療を提供できるよう医療の質の向上に取り組んでまいります。

目次

病院全体

■ 1 外来延べ患者数	1
■ 2 入院延べ患者数	1
■ 3 新入院者数	2
■ 4 退院者数	2
■ 5 退院先（転帰先）	3
■ 6 在宅復帰率	3
■ 7 平均在院日数	4
■ 8 病床稼働率	4
■ 9 主病名上位	5
■ 10 入院患者年齢層	5
■ 11 入院患者居住地	6
■ 12 入院目的別	6
■ 13 救急車受入れ件数	7
■ 14 2週間以内退院サマリー作成率	7
■ 15 病院満足度	8

医療安全

■ 16 身体拘束実施率	8
■ 17 転倒転落発生率	9

褥瘡

■ 18 褥瘡推定発生率	9
--------------	---

診療機能

■ 19 栄養指導件数	10
■ 20 薬剤管理指導数	10
■ 21 検査件数	11
■ 22 一般撮影件数	11
■ 23 入院患者1人1日当たりのリハビリ実施単位数	12

地域連携

■ 24 紹介患者数	12
■ 25 レスパイト入院件数	13

在宅医療

■ 26 訪問診療件数	13
■ 27 訪問リハビリテーション件数	14

1 外来延べ患者数

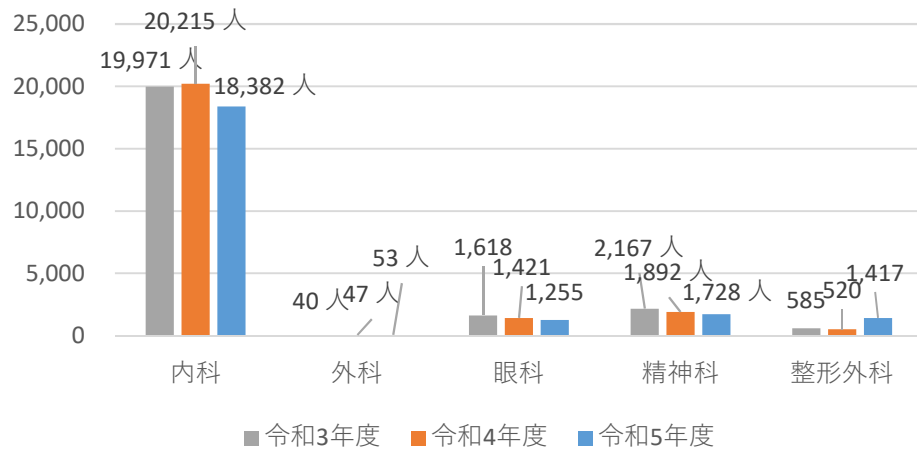
指標の説明

外来を受診された患者さんの数を表しています。

計算式

初診患者数+再診患者数

外来延べ患者数（単位：人）



考察

内科は、令和3年度から令和4年度にかけて新型コロナウイルス感染症による発熱等の患者さんが多く来院されました。また、令和5年度からは毎週火曜日と金曜日に整形外科の外来診療を開始し、整形外科患者数が増加しました。

2 入院延べ患者数

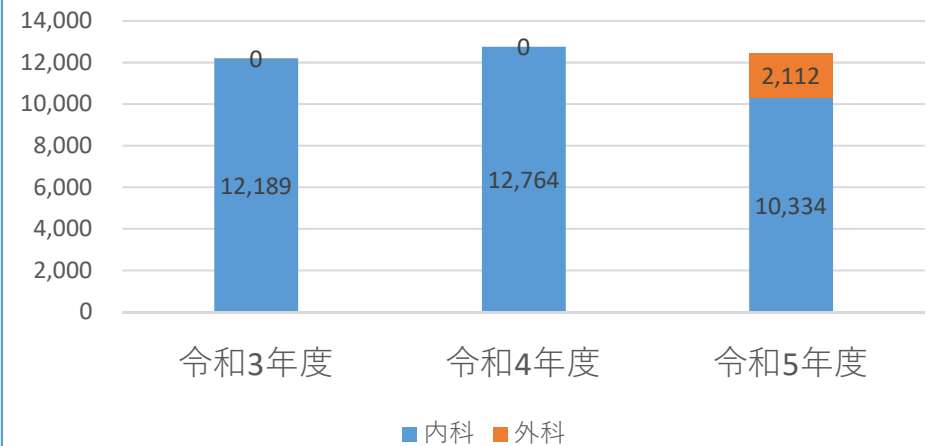
指標の説明

在院患者数（24時現在入院している患者さん）と退院患者数を合計した延べ人数を表しています。

計算式

在院患者数+退院患者数

入院延べ患者数（単位：人）



考察

令和2年度からの段階的な地域包括ケア病床増床に合わせ、患者数も延びてきました。令和5年度は新型コロナウイルス感染症患者の病床確保により、延べ患者数が減少しました。

これからも、地域の医療ニーズに合わせ、適切に医療提供できるよう体制の構築に努めてまいります。

3 新入院者数

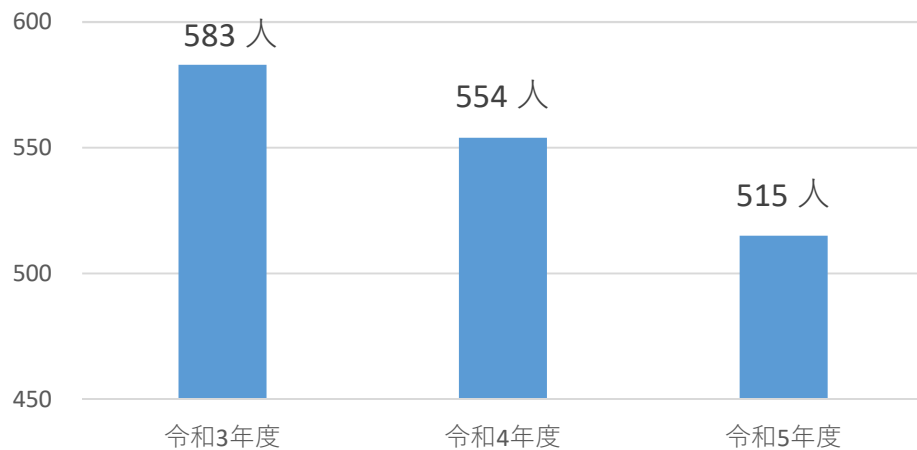
指標の説明

新たに入院された患者さんの数を表しています。

計算式

入院ごとにカウントした患者数

新入院数（単位：人）



考察

地域のかかりつけ医及び本院後方支援機能として、本院との機能分担及び連携を図り、本院で急性期医療を経過し状態が安定した患者さんをリハビリテーションや在宅復帰を目的として、当院への転院患者さんを受け入れています。

4 退院者数

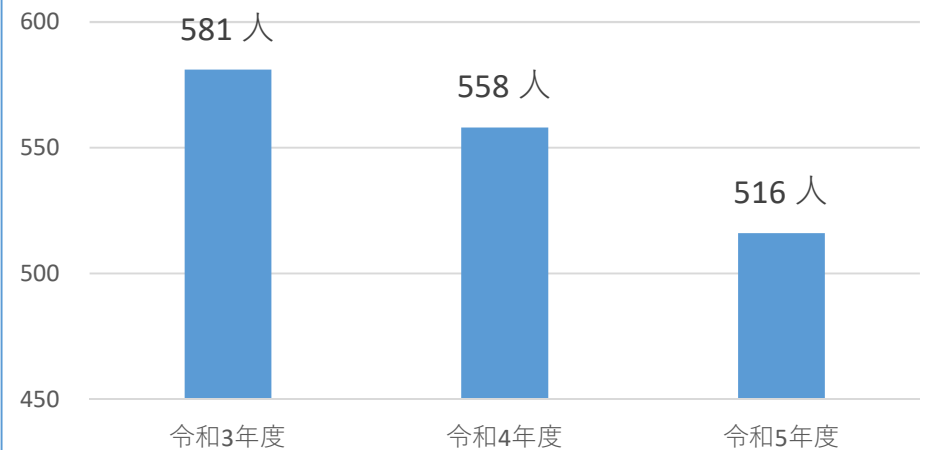
指標の説明

退院された患者さんの数を表しています。

計算式

退院ごとにカウントした患者数

退院数（単位：人）



考察

入院患者と同様に推移しています。

5 退院先（転帰先）

指標の説明

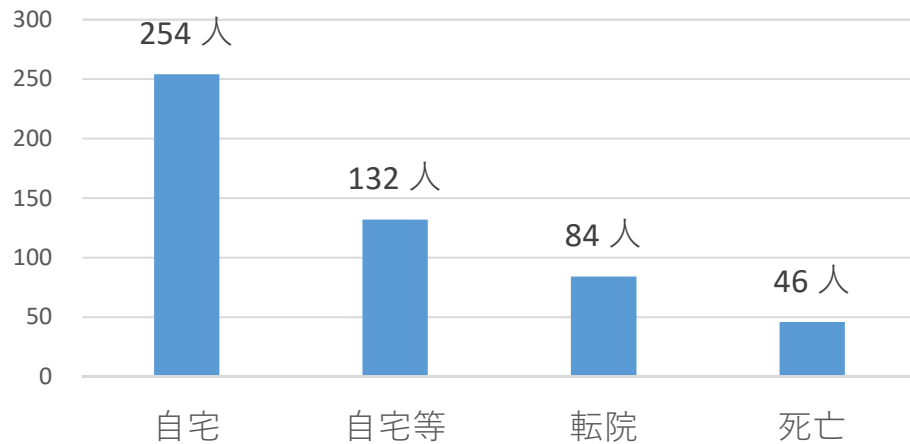
当院に入院された患者さんにおける退院先（転帰先）の患者数を表しています。

*自宅等とは、自宅や居宅系介護施設等をいい、自宅扱いとなります。

計算式

退院先別の入院患者数

退院先（単位：人）



考察

総退院患者の約7割以上が自宅及び自宅等に退院しております。
令和6年度もご希望の療養先に退院できるように支援いたします。

6 在宅復帰率

指標の説明

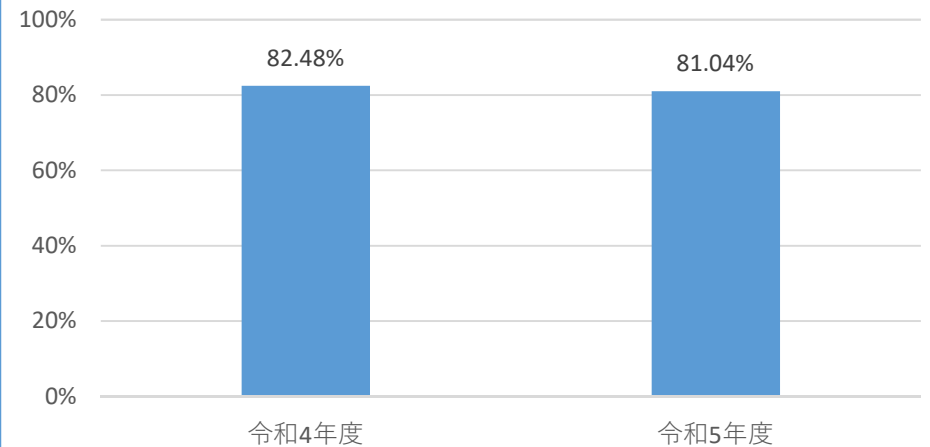
退院患者に占める、自宅等に退院するものの割合を示しています。ここでは自宅だけでなく居宅系介護施設等へ直接退院した場合も在宅復帰されたこととなります。

*地域包括ケア病棟のみの在宅復帰率となります（療養病棟は含みません）。

計算式

退院先が「自宅等」の患者数÷退院患者数×100
※ただし、死亡退院、再入院の患者は分子分母から除く

在宅復帰率（単位：％）



考察

入院日から退院後の生活について希望や要望を伺い、不安なく退院できるよう支援しております。

令和6年度も引き続き支援してまいります。

7 平均在院日数

指標の説明

患者さんが入院してから退院するまでの日数を平均して算出したものです。平均在院日数は、病棟の回転率や入院診療の効率性を示す指標です。

計算式

在院患者延べ数 ÷ (新入院患者数 + 退院患者数) × 1/2

平均在院日数 (単位：日)



考察

令和4年10月から全床（40床）地域包括ケア病床運用となり、在院日数が延びました。

地域包括ケア病床は60日まで入院が可能となっておりますので、今後も、その期間の中で、適切な医療とリハビリテーションの提供により、在宅復帰を目指します。

8 病床稼働率

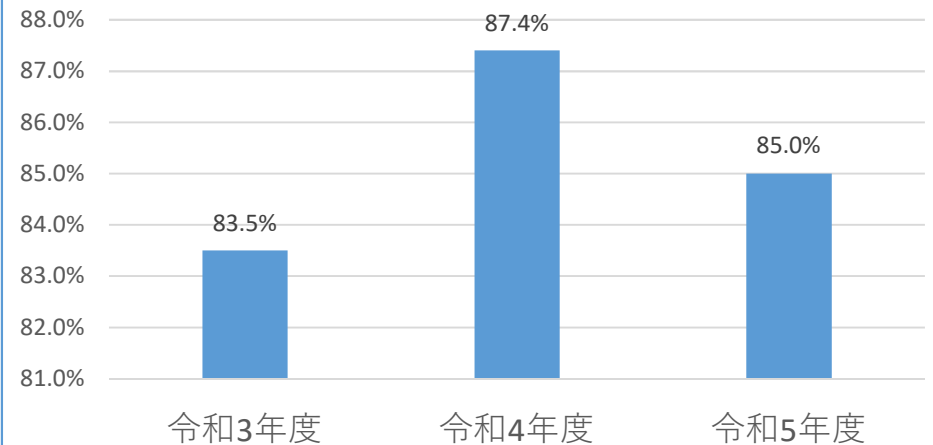
指標の説明

病床がどの程度効率的に稼働しているかを示す割合です。100%に近いほど空床がない状態で病床が利用されていることになります。当院は80%を目標にしています。

計算式

(延べ入院患者数 ÷ 稼働日数 × 稼働病床数) × 100

病床稼働率 (単位：%)



考察

令和4年度は新型コロナウイルス感染症患者の入院が多くありました。令和5年度は地域のかかりつけ医として、また本院の後方支援として積極的な受け入れを継続しました。

9 主病名上位

指標の説明

当院に入院された患者さんにおける主な疾病について、症例数で上位10種類を表しています。
(合併症や複数の治療の場合は、最も治療を要した重い疾病をとりあげていません。)

計算式

過去3か年の上位疾病症例数

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	症例名	症例数	疾病名	症例数	疾病名	症例数
1位	尿路感染症	56	誤嚥性肺炎	52	大腸ポリープ	48
2位	誤嚥性肺炎	53	尿路感染症	50	誤嚥性肺炎	45
3位	大腸ポリープ	52	大腸ポリープ	45	心不全	44
4位	心不全	48	大腿骨骨折	40	尿路感染症	39
5位	脱水症	26	脱水症	35	大腿骨骨折	35
6位	脳梗塞	24	心不全	35	脱水症	29
7位	大腿骨骨折	19	脳梗塞	27	脳梗塞	20
8位	蜂窩織炎	18	COVID-19	17	肺炎	20
9位	糖尿病	15	肺炎	16	蜂窩織炎	18
10位	肺炎	14	胆のう炎	11	COVID-19	13

考察

直近3年では、誤嚥性肺炎、尿路感染、大腸ポリープが上位となっております。また、令和5年度は、整形外科領域疾患の 大腿骨骨折術後の転院も多く受け入れました。

10 入院患者年齢層

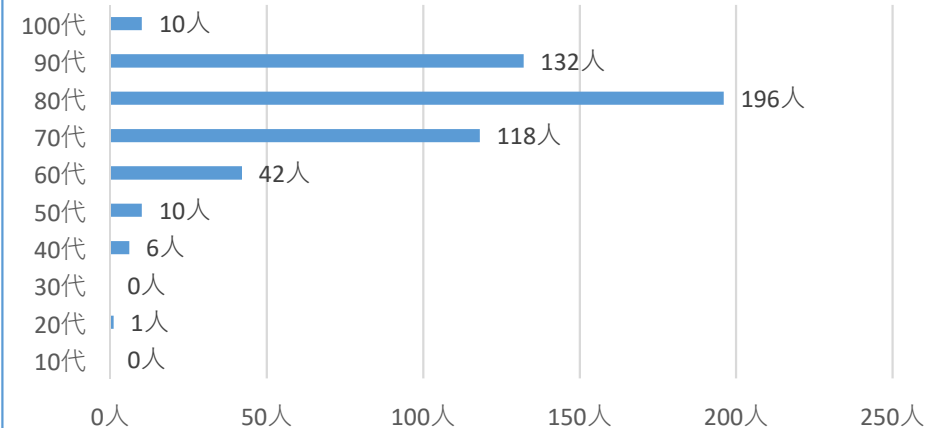
指標の説明

当院に入院された患者さんにおける年代別の患者数を表しています。

計算式

年代別入院患者数

年代別入院患者数（単位：人）



考察

80代の入院が38%と一番多く、次いで90代の入院が25%、70代の入院が22%の順となっております。100代については、10人受け入れています。

高齢化率の高い地域性を反映して、70~90代が8割以上を占めています。

11 入院患者居住地

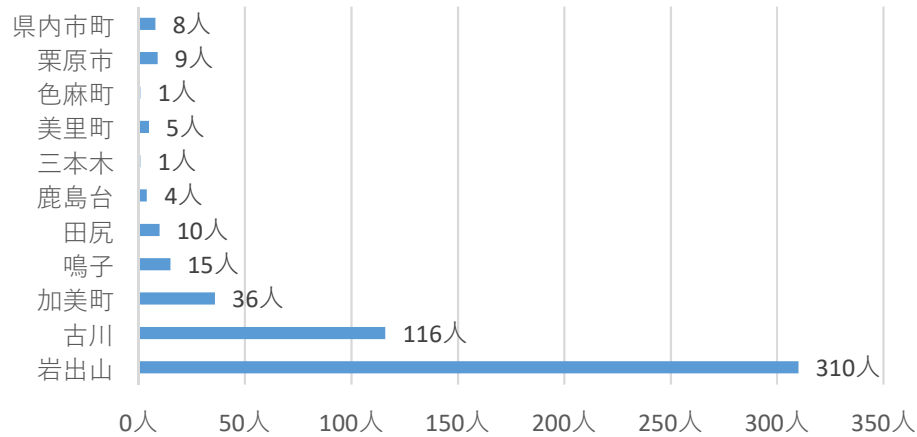
指標の説明

当院に入院された患者さんにおける居住地別の患者数を表しています。

計算式

居住地別入院患者数

居住地別入院患者数（単位：人）



考察

岩出山地域（近隣地域含）のかかりつけ医の役割を担っているため、6割以上が岩出山地域の方です。また、近隣地域（古川・加美町・鳴子）の方も3割以上入院しており、かかりつけ医の役割として十分に機能しています。

令和6年度も、継続して地域のかかりつけ医の役割を担ってまいります。

12 入院目的別

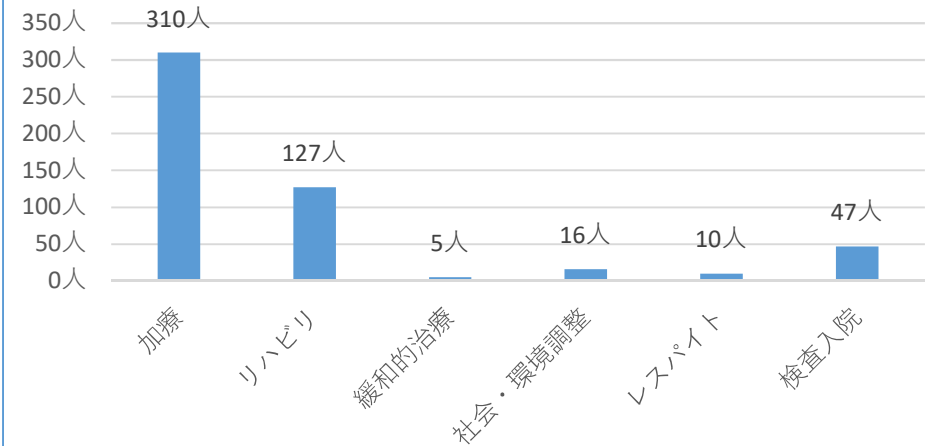
指標の説明

当院に入院された患者さんにおける目的別の患者数を表しています。

計算式

入院目的別の入院患者数

入院目的別（単位：人）



考察

主な目的として「加療」「リハビリ」が8割以上を占め、「療養」と「回復期」の機能を担っています。

検査の大腸カメラは、身体への負担軽減のため1泊2日で実施しております。（年間約50件程度）

13 救急車受入れ件数

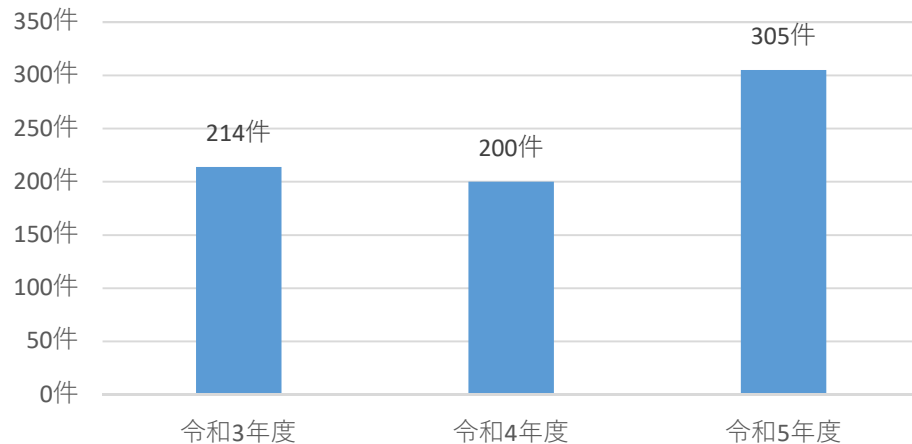
指標の説明

当院に救急搬送された患者数（直接来院含む）を表しています。

計算式

救急搬送の延受入件数

救急車受入れ件数（単位：件）



考察

令和4年度はコロナによる発熱患者の影響があり、救急車の受入件数は減少しました。令和5年度は整形外科医師の常勤配置もあり、前年度実績を上回る結果となりました。

これからも地域の安心に繋がるように、日中の救急受入を積極的に受入れるなど、救急受入体制構築に取り組んでまいります。

14 退院サマリー作成率

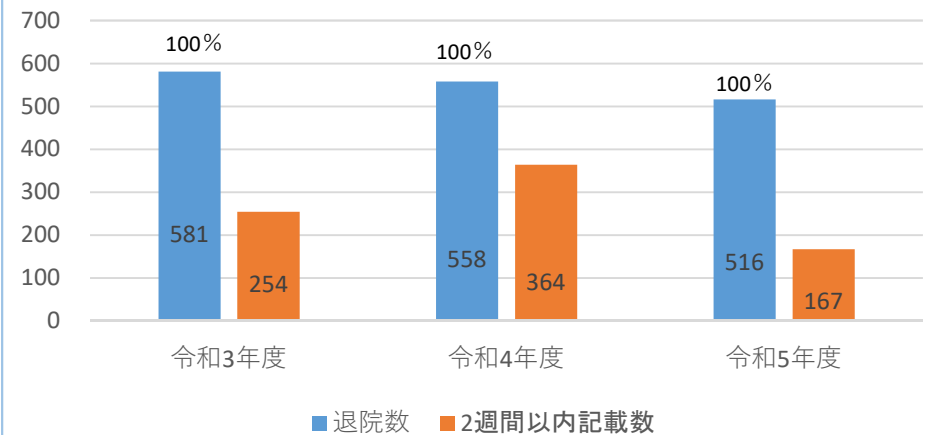
指標の説明

退院サマリーとは、診療記録のひとつで、入院患者さんの入院から退院までの治療内容と経過等を要約し、医師が作成する書類です（英語で要約のことをサマリーといいます）。

計算式

サマリー作成数÷退院数

退院サマリー記載率



考察

退院サマリーを確実かつ早期に作成することは、切れ目ない医師間の連携のためだけではなく、医療の質向上にとっても有益です。当院では100%の記載率となっております。

令和6年度からは、退院してからの経過日数に応じて医師へ作成を促す対策を講じ、2週間以内のサマリー作成率の向上を目指します。

15 病院満足度

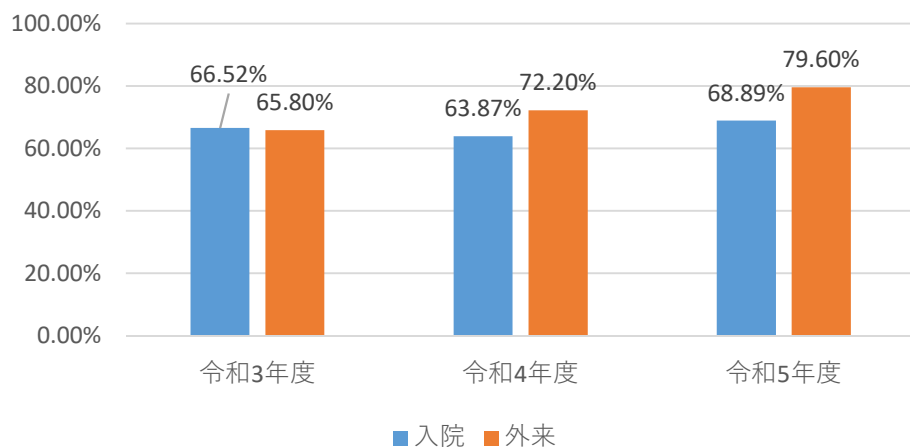
指標の説明

患者や患者家族を対象に施設や設備、受付、会計、医師をはじめとしたスタッフの言葉づかいや態度等、診療全般に対する満足度調査において、その有効回答のうち、「満足」「ほぼ満足」と回答いただいた数の割合を表しています。この調査では、満足度を5段階評価で調査しています。

計算式

入院：「満足」「ほぼ満足」と回答した人数÷有効回答者数
 外来：「満足」「ほぼ満足」と回答した人数÷有効回答者数

患者満足度（単位：％）



考察

全体的に「満足」「ほぼ満足」という結果と回答をいただきました。清掃や設備面、職員の対応や身だしなみでは、約8割を超えて「満足」「ほぼ満足」とのお声をいただきました。

しかし、病棟では「面会について」の不満が多くありました。感染対策に留意し安心して面会出来る体制を整えてまいります。また、外来では「診察までの待ち時間」の不満が多くありました。運用を見直すことで待ち時間の短縮を図ってまいります。

16 身体拘束実施率

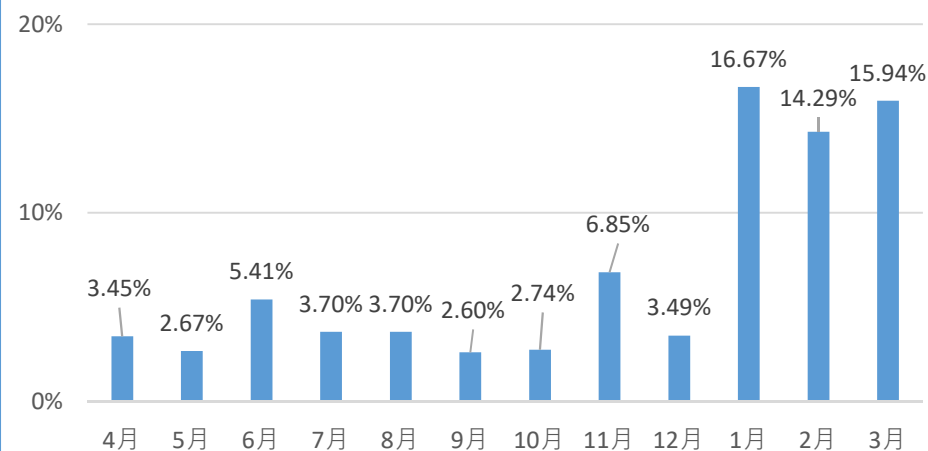
指標の説明

身体拘束は人間の尊厳に係わる重大な問題であることを認識したうえで、安全確保のためにやむを得ない場合の対応です。入院患者延患者数のうち身体拘束を実施した患者延べ数の割合を示します。より低い値が望ましい値になります。

計算式

身体拘束を実施した患者延べ数÷病床入院延べ患者数

身体拘束実施率（単位：％）



* 同機能病院 実績値 R5年10月～12月 10.89%

考察

治療において必要な、点滴や尿管チューブの抜去や転倒転落による損傷を防止するために患者さんの安全を第一義的に捉え患者さんやご家族に説明し、必要最少限の身体拘束を行っています。開始後は医師と看護師とで毎日、話し合うことで早期解除に取り組んでいます。

17 転倒転落発生率

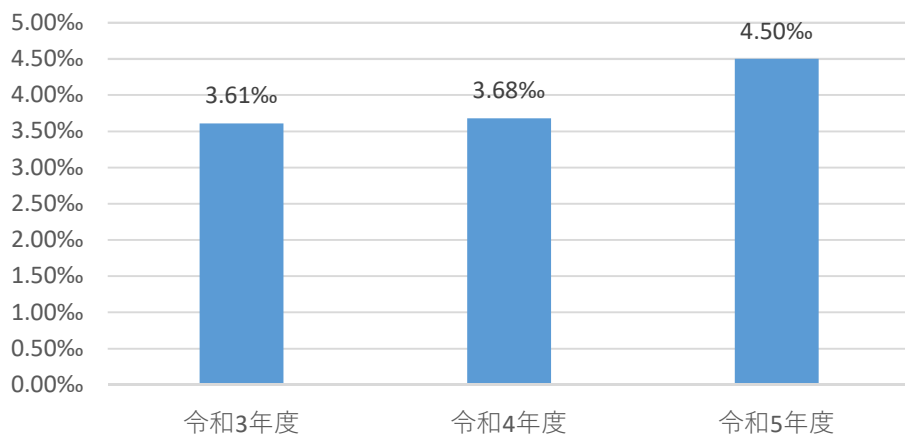
指標の説明

入院患者が転倒・転落した場合の発生の程度を表しています。

計算式

入院患者に発生した転倒転落の件数(レベル1~5の合計) ÷ 入院患者延べ人数 × 1,000(‰)

転倒転落率 (単位：‰)



考察

入院時に転倒転落の危険度を評価し患者さんやご家族から協力を得ながら防止策に取り組んでいます。また、多職種と連携を図り、より安全な療養環境を提供していくことで未然防止に努めてまいります。

18 褥瘡推定発生率

指標の説明

入院中に新しく褥瘡発生した患者数の割合を評価しています。発生がなければ低い割合となります。

d1：皮膚が発赤の状態で見え、d2：皮膚が破綻して真皮までの状態での発見

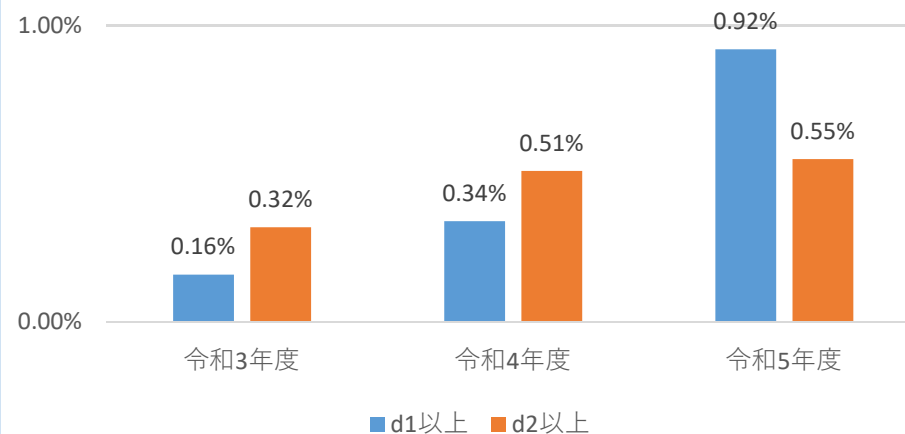
*看護協会DINQLと同様の評価方法

計算式

褥瘡推定発生率：A ÷ B × 100

A: 1年間で新規の褥瘡を生じた患者数 B: 1年間の病棟の実入院患者数

褥創発生率 (単位：%)



* 全国の平均値 (R4年) : 0.05% (d2以上)

考察

褥瘡予防においては入院時に評価し個々の患者に合った対策を行っています。また、月に1回多職種で褥瘡回診を行ない栄養管理や褥瘡治療に適した薬剤について話し合い褥瘡悪化防止に努めています。

19 栄養指導件数

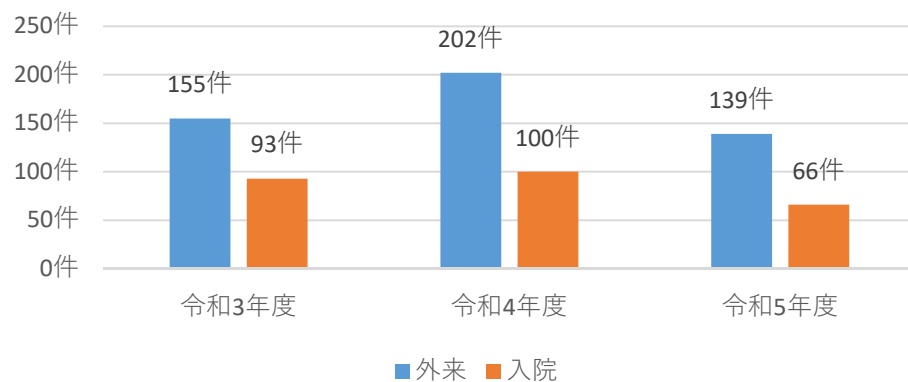
指標の説明

外来受診患者へ栄養指導を実施した件数及び入院患者へ栄養指導を実施した延べ件数を表しています。

計算式

入院指導件数＋外来指導件数の合計
(非算定を含む)

栄養指導件数（単位：件）



考察

令和3年度に比べ4年度で徐々に持ち直しの兆しが見られましたが、5年度では減少がみられました。内科医師が1名減となったこと、また、新規栄養指導が減少傾向にあることから、栄養指導必要な外来患者数の減少があると考えます。継続指導の方の受診終了(体調悪化で入院・死亡等)なども減少の要因と考えられます。引き続き、外来での食生活改善必要な方への栄養指導への介入及び入院に関しても退院へ向けての栄養指導介入を行ってまいります。

20 薬剤管理指導数

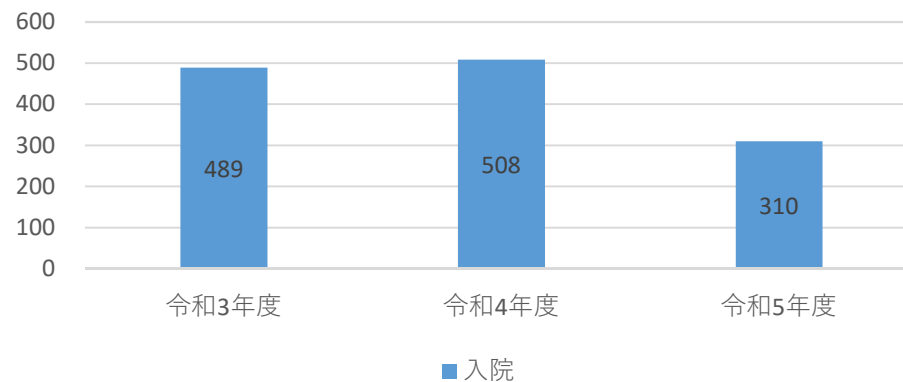
指標の説明

入院患者さんの使用している薬について、患者や家族などに薬剤師が説明を行った件数を表しています。

計算式

薬剤管理件数の合計

服薬指導件数（単位：件）



考察

意志疎通が困難な患者の場合であっても、退院時に家人や施設職員へ薬剤についての説明を行っております。令和6年度も継続して薬剤師が介入し、丁寧な説明と指導を心がけ取り組んでまいります。

21 検査件数

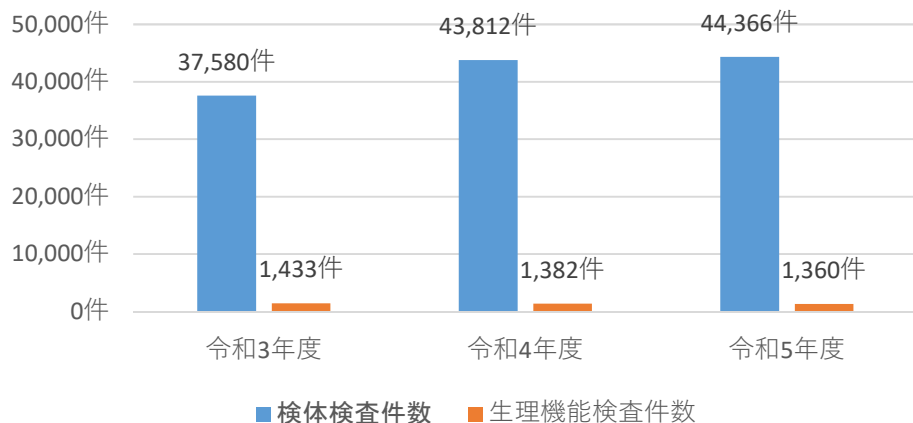
指標の説明

外来及び入院患者に対して検査した件数を表しています。

計算式

検査件数の合計

検査件数（単位：件）



考察

令和5年度の検体総数は前年度に比べ増加しました。腎機能検査の二次健診（精密検査）受け入れや、前年度に続いてコロナ抗原検査増加のためと考えられます。生理検査数は、一定を保っています。今後も、正確な検査結果を迅速に提供してまいります。

22 放射線撮影件数

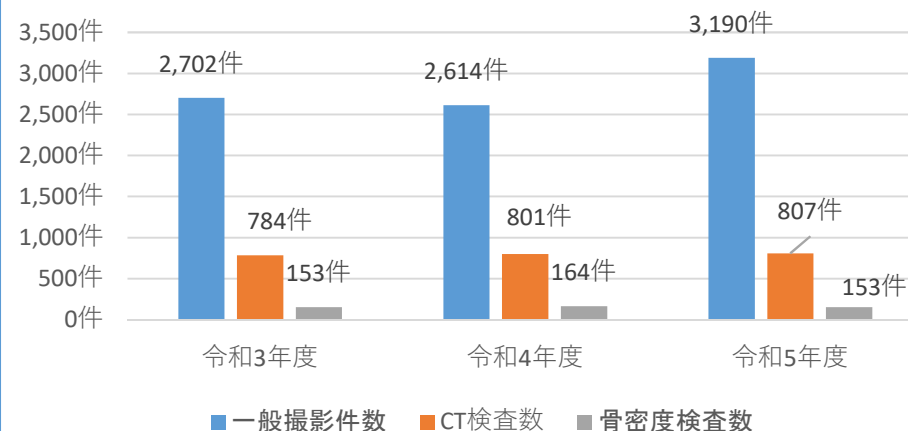
指標の説明

外来及び入院患者に対して撮影した件数を表しています。

計算式

一般撮影・CT撮影・骨密度撮影件数の合計

放射線検査数（単位：件）



考察

外来患者数は減少していますが、撮影件数を維持しています。令和4年度に内科医師が1人減になりましたが、令和5年度には整形外科医師が赴任したことが要因と考えられます。

身近な検査として骨密度測定検査の二次健診施設になっております。二次健診以外でも可能です。気になる方は、まずご相談ください。

23 入院患者1人1日当たりのリハビリ実施単位数

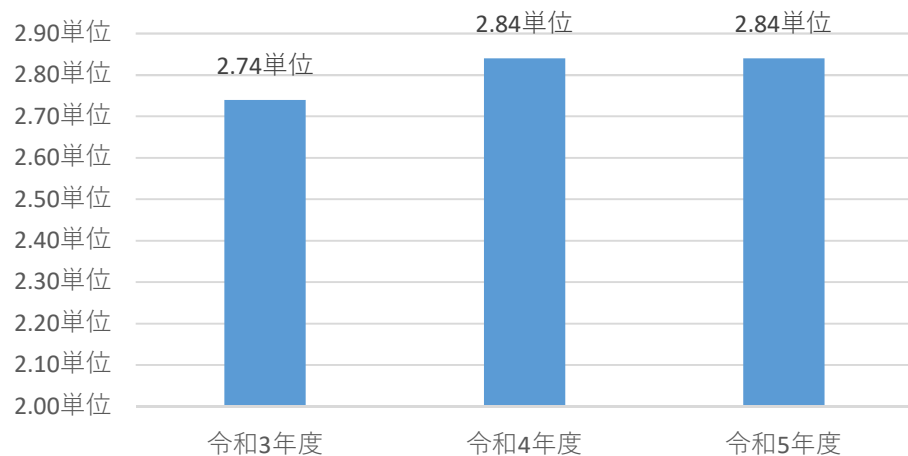
指標の説明

入院患者1人1日当たりのリハビリ実施単位数を表しています。

計算式

入院患者1人1日当たりのリハビリ実施単位数の平均値

提供単位数（単位：実施単位）



考察

限られた人員と高い処方率の中でも、患者サービスに主眼を置いた業務スケジュール管理を行い、手厚いリハサービスの提供が叶えられるようスタッフ一丸となって取り組んでいます。

24 紹介患者数

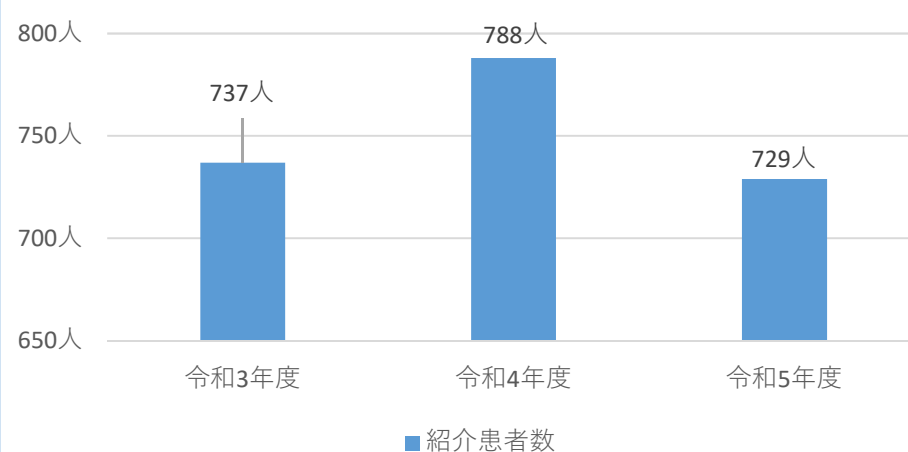
指標の説明

他医療機関から当院に紹介された患者数を表しています。

計算式

紹介患者数の合計

紹介患者数（単位：人）



考察

近院から幅広くご紹介を頂いております。今後も関係医療機関との連携をより強め、紹介患者数の増加に努めてまいります。

25 レスパイト入院件数

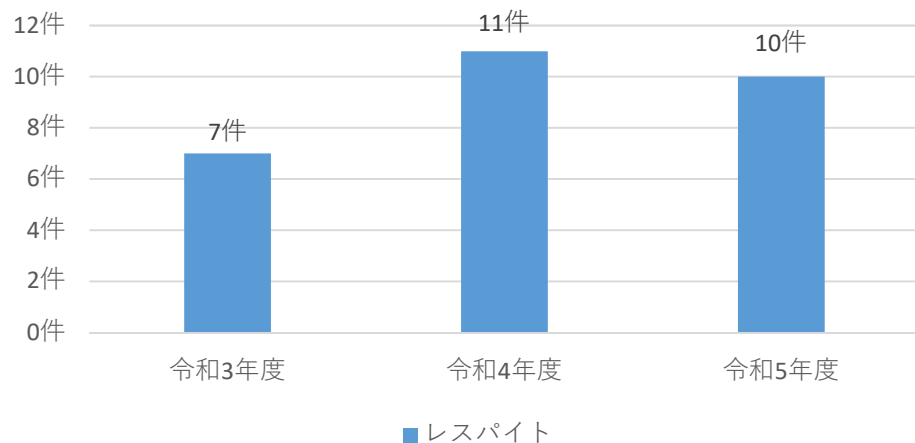
指標の説明

在宅で介護を受けている方やご家族・介護者の休養を目的とした短期入院の件数です。介護者の事情等により一時的に自宅での療養継続が困難となった場合にもご利用いただけます。

計算式

レスパイト入院件数の合計

レスパイト入院件数（単位：件）



考察

レスパイト入院利用件数は増加しています。より多くの方に利用いただけるように今後も広報活動を行ってまいります。

26 訪問診療件数

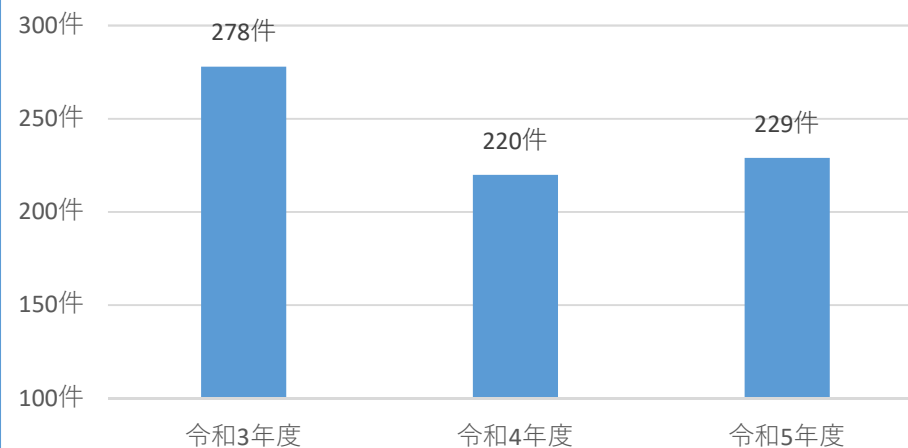
指標の説明

訪問診療の実績件数を表しています。

計算式

訪問診療実施件数の合計

訪問診療件数（単位：件）



考察

令和4年度は入院後に療養病床転院や施設入所希望が多くあり、訪問診療件数が減少しましたが、令和5年度は前年の訪問診療件数を維持できました。これからも住み慣れた自宅で安心して暮らせるように、訪問診療を継続してまいります。

27 訪問リハビリテーション件数

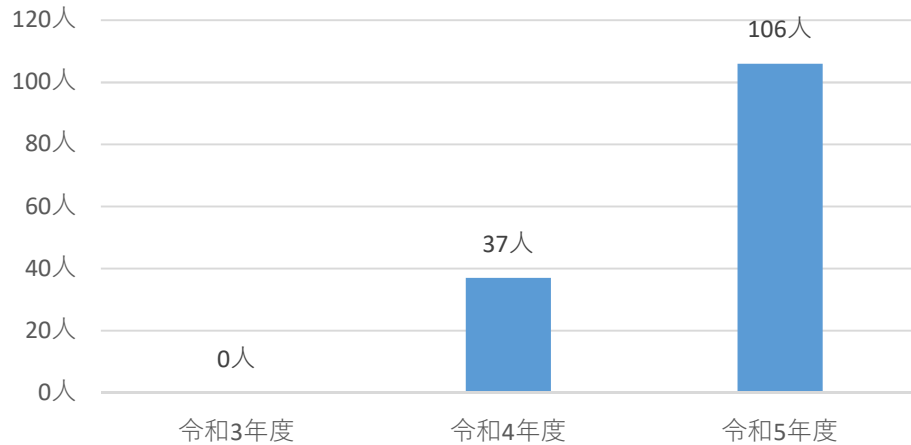
指標の説明

訪問リハビリテーションの実績件数を表しています。

計算式

訪問リハビリテーション実施件数の合計

訪問リハ件数（単位：人）



考察

介護保険の認定があり、退院後も自宅で継続的なリハビリが必要な方を中心に入院中から必要に応じて個別に対応してきました。施設基準では1件/月必要ですが、現在当院では3件/月で対応しています。

入院中の経過を情報共有し自宅の環境に応じた具体的な居宅での訪問リハビリが開始出来るのが利点です。